

北条鉄道の安全・安心について

黒田秀一 議員

Q 北条鉄道について、道床やレールを交換せねば危険な状態なのか。また道床交換に係る費用として、国から補助をもらうに当たり、関係する近隣市の首長の同意が必要と聞いているが、2年前に北条鉄道の件で小野市長を広報やインターネットで中傷されたが謝罪したのか。小野市長の同意を得られないことにより、国からの補助を得られず、加西市民に多大なる損害を与えているのではないかと。

A 北条鉄道は第三セクターに移行してから約25年間で経過しており、道床、枕木の交換の時期が来ていることは事実であり、現在中期的な経営計画を策定しているところではあります。施設整備に係る国の補助金制度を利用するには、原則的には北条鉄道に関連する地方公共団体が参加する再生支援協議会で再生計画を策定する必要があります。小野市に対しては協議会への出席をお願いしてきましたが、小野市では北条鉄道関係の条例を廃止されていることもあり、協力が得られていません。

しかし、車両の購入については、新車の購入ではなく、三木鉄道の車両の購入について三木市長や三木市の鉄道の跡地協議会への要望書の提出もしています。道床の交換は再生計画を策定しなくても、国の補助金が受けられるので、事業の運営には大きな支障を来していないという実情です。

小野市においては、前から北条鉄道の経営に対して疑念を持たれており、存続する意義について感じていらっしゃるなかつたと認識しています。市長が小野市に対して謝るといふことは筋が違っていると思います。



学習指導要領の改訂について

吉田 稔 議員

Q 文科省は学習指導要領を改訂し、小学校では平成23年、

中学校では平成24年より完全実施を行う予定。小学校の外国語活動について、新たに小学校5、6年生において、英語活動が義務づけられるが、英語の指導助手については、今年度も予算が増えないのではないか。道徳教育については、きつちりとした人格の上に知識を乗せ、培っていくということ、どのように教育現場で取り組まれるのか。武道の指導の充実については、学校の先生だけでは対応できなければ、外からの指導者も招聘して対応していくのが適切ではないか。

A 英語活動は、「コミュニケーション能力の素地を養う」という内容について、言語意識が高まる小学校高学年の時期に、日本語以外の言語に触れることにより、言語文化というものを認識することが大きな目標で、現在導入しているALTの活動実績、内容、成果、あるいは国際理解教育推進モデル事業の研究成果等を分析した上で、指導補助員の派遣時間等を増加させていくということも考えていく必要があると思います。道徳教育における具体的な内容は、現在週1時間、道徳学習がありますが、主として学校生活での問題、

心に響く資料を使っている授業、トライやるウィーク、自然学校等の体験学習を通して、計画的に行っています。子どもたちの道徳性を補充、進化、統合して道徳的実践力を養っていくということが現在行っている基本になっている考えです。武道については、体育科の指導の中で行われますので、体育科の教師の指導で、何ら不安はないと考えています。

溜池整備について

繁田 基 議員

Q 現在工事が行われている溜池箇所の後の計画については、危険溜池が何箇所かあると聞いているが、今後の計画についてのようになっているのか。一つでもいから溜池の調査、工事は継続して途切れないように行いたい。

A 加西市における警戒溜池については、現在10カ所が指定を受けています。4カ所については既に事業採択を受け、改修事業に着手しており、平成22年度には事業完了の計画をしています。残る6カ所のうち、2カ所は受益者が少なく、1戸あたりの負担額が高額で、地元でも検討されてい

るとのことです。あと4カ所については、概略設計を実施し県営事業のスムーズな移行を考え、予算要求を繰り返していますが、要求どおりになっていない現状です。溜池は、本来は地域住民がみんなで協力しながら維持管理していくべきものだと考えています。地域の皆さんが力を合わせて、溜池を守っていただく過程で、財政再建も進んでいくのではないかと考えています。現状加西市の財政状況は優先すべきお金がなかなか出ない状況で、溜池に関する新たな財源として、阪神間等から溜池に釣りに来ている人や、ボートを浮かべている人たちから一定の溜池維持費といったものがもらえるような条例が定められないか前々から事務方に指示しているところです。

